



## 目 次

薬用植物の紹介	薬用植物園長代行	草野源次郎	1
新しい教育研究組織	学長	矢内原千鶴子	2
新任の挨拶	教授	天野富美夫	3
平成13年度公開教育講座	公開教育講座委員長	掛見正郎	4
平成13年度市民講座を終えて	市民講座委員長	田中一彦	5
進学説明会とオープンキャンパス	入試副委員長	沼田敦	6
学生による授業評価アンケート	教務部長	石田寿昌	7
「大薬祭」雑感	学生部長	土井勝	11
セクシュアル・ハラスメントの防止と対策について	人権委員長	土井勝	12
平成13年度就職状況中間報告	就職部		14
平成12年度学校法人決算について	事務局長	肥塚敏彰	15
教務課だより			16
図書館だより			16
学生課だより			17
総務課だより			19
施設課だより			20
平成13年度後期行事予定			21

## チャ *Camellia sinensis* L. (ツバキ科)

ツバキ科ツバキ属の多年生木本である。カフェインを含み、それを含まないツバキ族と区別し、チャ族に分類される。中国種とアッサム種がある。中国種は寒さに強く、中国、日本で栽培され、緑茶製造に適している。アッサム種は10mを超える高木で、大形の葉を有し、熱帯地方で栽培され、紅茶製造に適している。

チャ (cha) の語源は広東語で、植物とそれを利用する文化は、中国から陸路東西に広がった。ティ (tea) の語源は福建語で、オランダの東インド会社が福建から、直接ヨーロッパにもたらしたことに由来する。原産地は確定していないが、長江とメコン川の上流域とする説がおもしろい。長江に沿って下ったのが中国種で、メコン川に沿って下ったのがアッサム種であるという。両種の染色体数は同じ ( $2n=30$ ) で、交雑し、雑種もできる。

カフェインは尿酸に類似の構造を有し、中枢興奮と利尿の効果を示す。cyclic AMP の分解を抑制し、細胞内カルシウムの濃度をあげる。カフェインを含む植物は分類学的に近縁関係にない属に点在し、それらが独立に嗜好品として利用された。チャ (ツバキ科ツバキ属、中国、東南アジア)、コーヒー (アカネ科コーヒー属、アフリカ西部)、カカオ (アオギリ科カカオ属、中央アメリカ、熱帯アメリカ)、コーラ (アオギリ科コーラ属、熱帯西アフリカ)、ガラナ (ムクロジ科ガラナ属、アマゾン)、マテチャ (モチノキ科モチノキ属、ブラジル南部、パラグアイ、アルゼンチン北部) などである。多分に疲労したときに、覚醒されたのであろう。

最近、チャは生活習慣病予防の機能性食品として注目され、盛んに研究されている。炎症に関与するサイトカインの生成を抑制し、その本体はカフェインとテオフィリンで、後者がより強いことが分かった。テオフィリンは気管支喘息の治療薬として使われ、気管支拡張作用を示すと理解されてきたが、抗炎症作用も介在する効果であることが明らかにされた。チャには大量のタンニンが含まれ、そのガロカテキン類が発癌や癌転位を抑制することが明らかになった。作用が弱いとされたカテキン類は、ガロカテキン類と共存すると、相乗的に効果をあげることも明らかになった。お茶を1日10杯以上飲む人は3杯以下の人に比べ、癌に罹る年齢が8.7歳遅いという疫学調査結果も発表された。アメリカで行われた



癌予防薬としての緑茶エキスの臨床第Ⅰ相試験は、緑茶エキスの最大耐用量が、1日3回飲用、約4.8g、緑茶30~40杯相当であることを明らかにした。現在、臨床第Ⅱ相試験が進行している。

カテキン系タンニンは、植物が光合成と糖代謝の圧力をシキミ酸経路を確立して軽減した結果として生産し、ラジカルを消去し植物体を守る。チャを含む照葉樹にこの系のタンニンが多いのは、そのためであると理解されている。そのタンニン類を利用して、人を含む動物は活性酸素やラジカルを消去している。HDL-コレステロール (善玉コレステロール) の増加、血糖上昇抑制、虫菌抑制なども知られている。糖尿病患者は癌に罹る率が高い。原因として、糖と蛋白のメイラード反応亢進が疑われている。チャの食後血糖上昇の抑制効果が癌発生を抑制することの根拠の一つである。

テアニン (グルタミン酸エチルアミド) は、チャに特有のアミノ酸である。脳虚血後に起こる細胞死が、脳内のグルタミン酸によることが明らかにされ、その抑制効果を示すテアニンが注目されている。

ゲノム科学と多種の生物が関与する生態現象の解明が進み、共進化の概念が一般化している。人類中心の考え方が見直され、多くの生物種が影響し合いながら生存している姿が理解されてきた。生物学を無視した思想や宗教が意味を失う時代は近い。

きれいな花が少ない晩秋に、白い花卉と黄色のおしべを下向きに、慎ましく咲くチャの花を眺めながら、人類とチャが関わり、人類は文化を発達させ、チャは分布を広げたことを思った。重要生薬と考えなかったチャが、生活習慣病予防医学の進歩により、最重要の生薬になろうとしている。

(教授 草野源次郎)

# 新しい教育研究組織

学長 矢内原 千鶴子

国内外で社会は激しく震動し、さまざまな組織や機能は押し寄せる変革への波のうねりを避けることができない厳しい環境の中にあります。大学もまた例外ではなく、実際、大学関係者にとっては、国公立のいずれを問わず、改革が急務となっています。大学に改革が求められる要因には、わが国全ての大学に共通するものもあれば、各大学個別の問題もありましょう。大学が学術研究、高度な教育の中心であることは言うまでもありませんが、さらに、その社会的使命の変化に迅速に対応すべく、それぞれの問題の解決と新しい時代の大学づくりのための改革が求められています。

大阪薬科大学では、高槻学舎の新築と全面移転という大事業を経て、大学の教育、研究の施設環境は全国でも有数の素晴らしいを誇るものとなりました。以来、既に5年が経過しましたが、本学の新しい飛躍と発展を期するに欠くことのできない次の課題は、教員組織の改革であり、これはまた、移転前よりの本学の長年の懸案でもありました。教員組織の改革は、単に人事の問題ではなく、また、それ自体が目的でもないことは言うまでもなく、改革が本学の教育・研究の充実とその成果の向上に直結するものでなければなりません。本学がその人材の持てる能力を存分に発揮できる環境を整え、さらにそれを十分に活用し得る体制を確立することでありましょう。ゆるぎない薬学の学問的基盤の上に確かな地歩を固めつつも、急速に進歩する科学の最先端に遅れをとることなく、一方では、激しく変動する社会の要請にも柔軟に対応し得る教育研究体制をつくり上げねばならないと考えてきました。意欲もてる環境では人はその能力を何倍にも増幅できるものであります。本学の伝統の重みは何ものにも代え難いものでありますが、その伝統に埋没することなく、大阪薬科大学ならではの新時代にふさわしい薬学教育の開発と確立に邁進することが現教員に課せられた重大な責務であると考え、その実現を可能にする組織づくりを目指してきました。特にこの1年有余、学内では集中的に充実した議論がなされてきました。そうした努力の結果、去る4月1日、本学の新しい教育研究組織が発足できる運びとなりました。現実には全てを一新できるものでもなく、種々の制約の中で旧体制とのある程度の妥協も避け難かったことは否めず、新組織が最高の理想像を実現したものであるとは申しませんが、必要に応じて改善を加えつつ、これを基盤として本学の教育研究の充実と更なる発

展を期し、なお一層の努力をすることこそが重要と考えています。

新組織は、基本的には専門薬学系、総合薬学系および総合科学系の3系を主柱とする体制であります。専門薬学系は、薬学の学部ならびに大学院薬学研究科博士課程（前期：修士、後期：博士）の教育、研究を行うもので、伝統的な薬学を代表する7部門11教室（2001年11月現在）から成り立ち、それぞれは小講座制をとっています。一方、総合薬学系は現在、基礎薬科学教育研究群、臨床薬学教育研究群の2群から成り、その中にそれぞれ3部門が含まれています。同じく学部、大学院薬学研究科の教育研究の遂行が責務であります。研究グループが融合された大講座制のもと、学際的、総合的かつ先端的な研究の推進が目標の1つであることを特徴とする新しい形の組織であり、本系こそ、本学が新時代に向けて飛躍する絶好の場を提供するものと信じています。本系は、また臨床薬学教育の中心的役割を果たすことが期待されています。今後は、大講座制の利点を十分生かせるよう、本来のあるべき形を確立すべく努力しなければならぬと考えています。薬学教育の中には専門の薬学のみならず、特に医療に携わる者に求められる知性、品性、教養も含めた優れた人間性の涵養を目的とした教育が必要であることは言うまでもありません。言語文化学、自然学、人間文化学、環境医療学の4グループから成る総合科学系は、従来の非実験系の組織を改組したもので、特にそうした面での教育に重点を置いた学部教育の充実を主な役割とし、本学独自の教育研究成果に繋げるべく、薬学専門分野と組織を越えて協力体制を構築することを目指しています。こうした3系がそれぞれ独自の役割を分担しつつ、互いに協力、補填、融合することにより、本学の教育研究の成果が何倍にも飛躍することを望んで止みません。

以上、大阪薬科大学の新しい教育研究組織について簡単に説明しましたが、こうした組織の改革が実績に繋がって行くためには、教員個々の強い目的意識をもった努力が必須であることは言うまでもありません。新しい組織に魂を入れる責任を痛感する毎日であります。

先にも述べたように、本学にとって次の最重要課題は教育体制の改革と確立であります。急速に変化する薬学教育への社会の要請に対応しつつも、時流に押し流されることなく、本学独自の理想と理念を堅持し、改革を進めて行きたいと考えています。



## 新任の挨拶

衛生化学教室教授 天野 富美夫

このたび平成13年7月2日付で衛生化学教室の教授に就任致しました天野富美夫です。伝統ある大阪薬科大学の衛生化学教室を主宰する機会を得ましたことを大変名誉に思います。着任に当たり、自己紹介かたがた、御挨拶申し上げます。

私は国立感染症研究所（旧、国立予防衛生研究所）細胞化学部で約21年間の研究生活を送り、この間、私たちのからだを、感染症や種々のストレス、また癌などから護り、自然免疫系の中心的な役割を果たすマクロファージという細胞を中心とした研究を進めてきました。この細胞は「大食細胞」とも呼ばれ、自分にとって「異物」と認識した様々な物質を細胞内に取り込んで消化・無毒化する働きを持つ、サイズの大きな「食細胞」です。その前駆体の単球は骨髓の中で作られ、血流に乗って体内を循環し、それぞれの組織や臓器に定着して「マクロファージ」に分化します。脳の中にはミクログリア、肝臓の中にはクッパー、肺の中には肺泡マクロファージ、腎の中にはメサングウムと呼ばれるマクロファージの仲間が存在し、それぞれの組織に固有の機能とマクロファージとしての共通の機能を持っています。すなわち、警察システムにおける派出所のおまわりさんに相当する役割を持ち、外界からからだの中に細菌やウイルスが侵入するといち早く出勤し、細胞内に取り込んだり活性酸素（過酸化水素や一酸化窒素ラジカルなど）やリソゾーム酵素を放出して攻撃して殺します。また、血液やそれぞれの組織の中に細菌やカビの成分が取り込まれたり、自己の組織の一部が癌化したりすると速やかに反応して、自分の細胞内リン脂質からアラキドン酸を遊離してプロスタグランジンやロイコトリエン、血小板活性化因子(PAF)などの生理活性脂質メディエーターを産生し、炎症を引き起こします。また、TNF $\alpha$ やIL-1 $\beta$ 、IL-6、IL-8などの様々な炎症性サイトカインを遊離して自分のまわりに仲間のマクロファージや好中球、

あるいはT、Bリンパ球などの免疫担当細胞に働きかけて全身の免疫系を活性化します。

このように、マクロファージは変幻自在、神出鬼没の働きをして、外敵からからだを護るだけでなく、癌などの内部の反乱を鎮圧しながら個体の発生や分化の調節を行う重要な細胞です。衛生化学教室では、前任の藤田直教授を中心に藤本助教授、佐久間助手が動物の臓器を用いて活性酸素、過酸化脂質やプロスタグランジンの研究を行ってきましたが、今後はこの研究をさらに発展させ、マクロファージの感染防御などの機能調節と結び付けて分子レベルでの研究につなげていきたいと思っています。また、サルモネラなどの食中毒の原因菌の病原因子の研究や、トリブチルスズなどの内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）の免疫系に及ぼす毒性の研究を含めた衛生薬学領域の研究を重点的に進め、薬学教育のより一層の充実を目指したいと考えています。

21世紀は、健康をめぐる、人類がこれまでに経験したことの無いほど多くの問題をかかえることが予想されます。環境汚染はすでに深刻な様相を呈しており、それが衣食住のすべての範囲に及んでいます。急速な人口の高齢化によって、かつて経験したことのない疾患が明らかにされる可能性もあります。また、ヒトの生活空間以外でも、自然環境の破壊が急速に進んでいるため、大気汚染・海洋汚染・土壌汚染を通じて地球規模で生体における「恒常性（ホメオスタシス）」が脅かされていると言っても良いでしょう。私はこの困難な時代を乗り切る舵取りの方法のいくつかを、若い学生諸君と共に、衛生薬学を学び研究しながら追求していきたいと思っています。

最後に、微力ではありますが、衛生化学教室での教育と研究を通じて本学の発展に尽くす覚悟でありますので、どうぞ皆様からの益々の御支援・御鞭撻のほど、お願い申し上げます。

# 平成 13 年度公開教育講座

公開教育講座委員長 掛 見 正 郎

## 第28回 公開教育講座

「メディカル・リスク・マネージメント」  
一医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院での取り組み一  
日 時：平成13年5月19日(土) 13時30分～17時30分  
場 所：大阪薬科大学 講義室 (講義・実習棟1階)  
13時40分～14時40分

「ナースの立場から」  
医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院  
看護部長 高橋 昭美

14時50分～15時50分  
「医師の立場から」 老人保健施設八尾徳洲苑  
施設長 酒井 敬

16時00分～17時00分  
「薬剤師の立場から」  
医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院  
事務部長 尾崎 勝彦



## 第29回 公開教育講座

「感染症をめぐる最近の話題」  
日 時：平成13年12月1日(土) 13時30分～17時00分  
場 所：大阪薬科大学 講義室 2 A  
(講義・実習棟2階)

13時40分～15時10分  
「食品をめぐる新興・再興感染症—サルモネラ感染症の実情と対策および基礎研究の動向—」  
大阪薬科大学衛生化学教室教授 天野富美夫

15時25分～16時55分  
「強酸性電解水を用いた集中治療病棟における感染対策」  
国立函館病院副院長 公文 啓二



## 第30回 公開教育講座

「臨床診断法をめぐる最近の話題」  
日 時：平成14年2月23日(土) 13時30分～17時00分  
場 所：大阪薬科大学 講義室 2 A  
(講義・実習棟2階)

13時40分～15時10分  
「画像診断法の進歩と薬学」  
大阪薬科大学学生体機能診断学研究室助教授  
大桃 善朗

15時25分～16時55分  
「検査値の読み方：一般検査値より炎症を読む」  
大阪医科大学第一内科講師 槇野 茂樹

# 平成 13 年度市民講座を終えて

市民講座委員長 田 中 一 彦

平成13年度の市民講座は年2回、第11回は5月26日(土)に、第12回は11月17日(土)に開講した。参加者は両回とも講堂がほぼ満員となり(約300名)、「くすりの相談室」(12時30分から13時30分、16時50分から17時20分)を利用された方は各約40名、その他、多数の方が12時ごろより来られ、薬用植物園(16時閉園)などを見学されていた。高槻市在住の方が70%を占め、すっかり市民講座として定着してきたようである。関係者の皆様のご努力のおかげであり、厚く御礼申し上げます。

さて、第11回の市民講座は生活習慣病の代表的な疾患である、糖尿病を取り上げ、糖尿病と食事、またその予防・治療法についてご講演願った。特定医療法人社団仁真会白鷺病院の栄養管理科長の上嶋章子先生は「糖尿病予防のための食事一何をどう食べるか」について、実際の塩の袋、また、食事そのものの写真やレシピなどを使い、具体的に説明された。りんくう総合医療センター市立泉佐野病院代謝内科部長の小松良哉先生は「生活習慣病としての糖尿病—その予防と治療について」と題して、糖尿病そのものの説明から具体的な治療法、予防法について、分かりやすく講演された。両講演とも具体的で、分かりやすく、講演後のアンケート調査(回答率60%)でも好評であった。市民の生活習慣病に対する関心は深く、今後も少なくとも2回に1回は取り上げていきたいと思っております。

第12回の市民講座は、一つのテーマではなく、アンケートからの希望により別々のテーマにて講演していただいた。1講目は本学の生薬科学教室助教授の馬場さき江先生に「健康食品(サプリメント)と

くすりの飲み合わせ」についてご講演願った。健康食品は実際に利用されている方が多く、より具体的な質問が多数あり、健康食品と薬に対して、別の意味からも関心を持っていただいたようである。2講目は堺市立八田荘老人ホーム健康管理医の神木照雄先生に「老人と健康管理」についてご講演願った。最後に詩人サムエル・ウルマンの「青春」という名の詩を声高らかに参加者と一緒に歌われ、「こころの健康」の大切さを説かれた。参加者の70%以上の方は60歳以上であり、テーマについての関心が深く、神木先生の怪妙な話しぶりとあいまって、このほか好評であった。

最初に、市民講座はすっかり定着してきたと書かせていただきましたが、講座の終了後にいただくアンケート結果によると、開講時期や時間帯、取り上げるテーマ、「くすりの相談室」と薬用植物園の開園時間帯、など多くの問題や希望があり、定着させるには、なお一層の努力が必要なようです。関係者の皆様のなお一層のご支援とご教授のほど宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本講座の開催にあたりご共催いただきました高槻市、日本薬学会近畿支部、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会、大阪薬科大学同窓会、並びにご後援いただきました大阪府、高槻市教育委員会に厚く御礼申し上げます。また、資料などの提供をいただきました協賛企業に厚く感謝申し上げます。

なお、第13回の市民講座は平成14年5月18日(土)に開講する予定でおります。宜しくお願い申し上げます。

【第11回 市民講座】



【第12回 市民講座】



# 進学説明会とオープンキャンパス

入試副委員長 沼田 敦

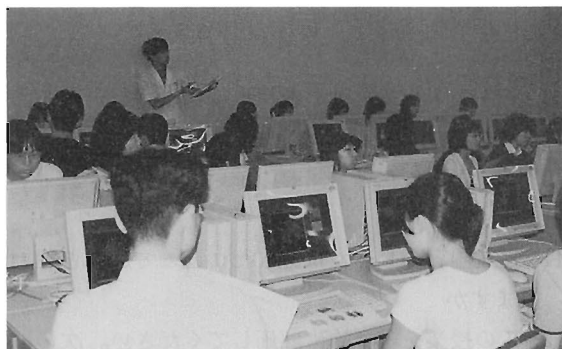
今年度も例年通り、本学主催の進学説明会を大阪東急ホテルと広島国際会議場でそれぞれ6月8日(金)、6月15日(金)に開催するとともに、8月3日(金)及び8月24日(金)の両日にオープンキャンパスを開催しました。

大阪会場における進学説明会は高等学校及び予備校の先生方にご案内し、高校から94校(95名)、予備校から17校(19名)の114名のほぼ例年どおりの先生方が参加されました。入試概要、薬学教育・研究、資格、就職についての説明のほか、本学の素晴らしい施設をビデオで紹介しました。本年度実施の入試内容は昨年度と変わりがない上、昨年度、薬系大学では初めて導入しましたAO入試について土井教授(AO入試委員会責任者)から詳細に説明をして頂きましたので、あまり質問はありませんでした。広島会場では、高校の先生と受験生・保護者を対象とした進学説明会をそれぞれ別時間帯で開催し、高校の先生は2名、受験生・保護者は32名参加されました。大阪会場とはほぼ同様の内容で石田教授(教務部長)を中心として実施されました。

6月には、受験情報関連企業主催の入試説明会がいくつか企画され、本学からも入試委員の先生と入試・広報課員の方々と手分けして東京(新宿及び市

ヶ谷)、名古屋、大阪、福岡等の会場に参加して頂きました。また、予備校や高校で行われる薬学紹介または入試説明の催しにも一部参加しました。

主に受験生を対象にしたオープンキャンパスでは、両日で623名が参加し、過去最高の人数となりました。当然のことながら、高校3年生の参加が最も多く(約61%)、次いで高校2年生(約19%)、既卒受験生(約16%)、高校1年生(約4%)の順でした。例年に準じて、薬学教育・研究、資格、就職(就職部長の千熊教授)、一般入試概要とAO入試の詳細な説明(土井教授)、ビデオ上映、模擬実験(①コンピュータグラフィックスで見るチトクロームC酸化還元酵素の世界、②電子顕微鏡で見る極微の世界)、研究室、図書館等の学内見学、個別相談等を実施しました。個別相談の質問事項としてはAO入試や推薦入試に関するものが多く、これらに対する関心の高さがうかがわれました。アンケートによれば、参加者はおおむね満足して帰られた様子でした。オープンキャンパス参加者で本学を受験する人数は、おおよそ20%、合格者はそのうちの約10%程度ですが、本学に関心を抱く高校生が年々増えており、オープンキャンパスによる大学広報の成果があがりつつあると思われます。



# 学生による授業評価アンケート

教務部長 石田 寿 昌

教務部では、7月上旬に本年度の1～3年次前期授業科目に対して、学生による授業評価アンケートを実施いたしました。これは、現在行われている授業の内容やレベルが学生にとって妥当であり、理解させる配慮が充分になされているかを学生に問うと共に、講義に関するそれ以外の意見や要望を聞き、これを元にして授業をより学生に分かりやすく、また、学生主体の授業へと改善していくことを目的としています。

このアンケート結果に対する対応としては、その結果をデータ化して各講義担当者に報告し、今後の授業計画に役立ててもらおうと共に、次のことをお願いしました。即ち、(1) 授業を進めやすくするために教務部・教務課が行うべき具体的な事柄に関する要望や意見（例えば教育設備の充実等）を聞かせていただくこと、(2) アンケートに協力した学生への講義担当者からのフィードバックとして、評価結果に対する教員からのコメントやメッセージ（学生の講義に対する意見や要望に対する回答や担当者から受講学生への要望など）を学生に伝える「学生へのメッセージ」の作成です。(1) は教務課で保存し今後の授業改善に役立てるよう、(2) についてはそれらを取りまとめ、学生への閲覧に供するように配慮いたしました。

ここに、本年度前期授業評価アンケート集計結果を掲載いたします。掲載する内容は1～3年次生全体のアンケート結果（表）とそれぞれとの比較を示す棒グラフです。17の設問項目に対して5段階評価で表しています。設問項目毎に1～3年次生全体の平均と各年次の平均を示しています。棒グラフの縦軸の数値が3.00の場合は各設問項目の平均評価点に相当いたします。従って、各設問項目の評価はその値からの変位で解釈してください。設問項目17から学生はあまり予習・復習をしていないことが分かり気になる場所ですか、設問項目の多くは3.50以上

であり、講義は比較的良好に進められていると考えられます。なお、4年次科目については、前期授業終了日が6月15日であったため、今回のアンケートには間に合いませんでした。

この結果を有意義なものにするためには、今後も全ての講義、実習・演習を対象としたアンケートを継続的に実施し、統計的な結果に基づく総合評価を行うことが極めて重要であり、そのためには学生諸君の積極的な協力が必要不可欠です。これにより、最終的には学生と教員の相互信頼に基づく学生主体の講義体制が確立できるものと確信しています。

## 2001年度前期授業評価アンケート集計

### 【設問】

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. テキストやその他の教材を使用していた場合、それは適切に行われていましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切と思われませんか
12. この授業を総合的に評価してください。次の評



価基準で回答してください

(5—非常に良い, 4—良い, 3—普通, 2—あまり良くない, 1—良くない)

- 13. あなたは、この授業によく出席しましたか
- 14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
- 15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
- 16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
- 17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していましたか

回答は、

- 5—そう思う（5ポイント）
- 4—どちらかといえばそう思う（4ポイント）
- 3—どちらともいえない（3ポイント）
- 2—あまりそうは思わない（2ポイント）
- 1—そうは思わない（1ポイント）

から選択。

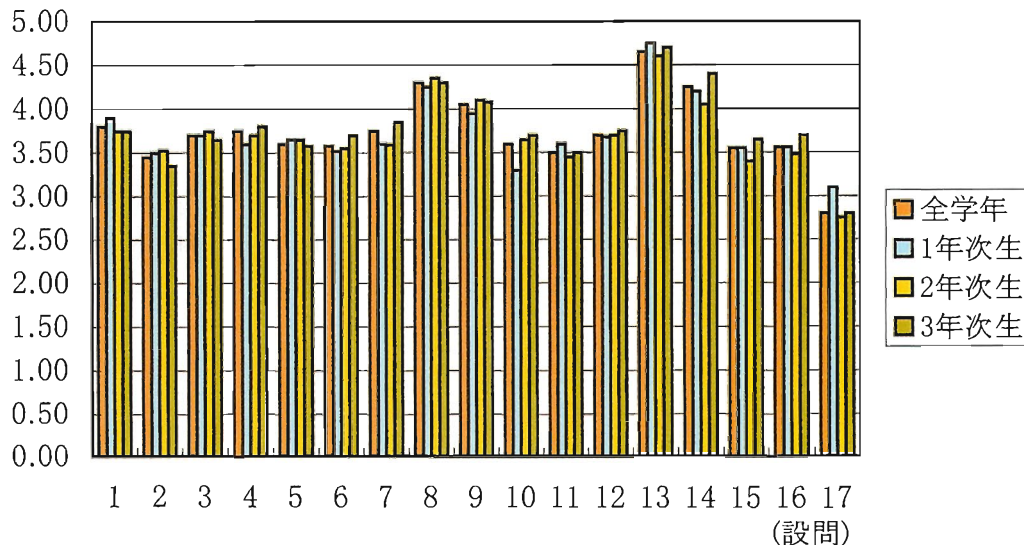
但し、設問2, 9, 10については、

- 0—該当しない（0ポイント）

を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

	全 学 年	1 年 次 生	2 年 次 生	3 年 次 生
延べ履修人数	11,100 名	3,047 名	3,969 名	4,084 名
延べ回答人数	7,953 名	2,450 名	2,663 名	2,840 名
回 答 率	71.6 %	80.4 %	67.1 %	69.5 %

(平均値)



## 全学年

設問	平均値 (無回答含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは思 わない	0 該当しない	無回答
1	3.84	36.0 %	30.4 %	18.6 %	9.2 %	5.1 %	—	0.6 %
2	3.48	23.5 %	28.6 %	23.3 %	12.9 %	8.1 %	2.9 %	0.7 %
3	3.67	27.6 %	31.6 %	25.0 %	10.3 %	4.8 %	—	0.7 %
4	3.76	24.5 %	31.0 %	36.8 %	3.0 %	1.5 %	—	3.2 %
5	3.63	27.2 %	31.7 %	23.4 %	11.1 %	6.0 %	—	0.7 %
6	3.60	25.6 %	29.1 %	28.9 %	10.4 %	5.3 %	—	0.7 %
7	3.73	29.1 %	30.7 %	27.4 %	7.7 %	4.2 %	—	0.8 %
8	4.25	49.2 %	31.7 %	13.8 %	3.1 %	1.5 %	—	0.8 %
9	4.03	38.0 %	28.6 %	18.4 %	5.0 %	2.3 %	6.8 %	0.9 %
10	3.58	10.5 %	6.6 %	15.0 %	2.3 %	2.2 %	61.8 %	1.6 %
11	3.51	18.9 %	32.0 %	33.6 %	9.4 %	5.1 %	—	0.9 %
12	3.67	24.3 %	36.0 %	23.6 %	9.9 %	4.4 %	—	1.7 %
13	4.66	76.6 %	14.0 %	6.2 %	1.9 %	0.6 %	—	0.8 %
14	4.17	46.0 %	30.6 %	17.0 %	4.2 %	1.2 %	—	0.9 %
15	3.53	22.2 %	29.6 %	31.1 %	10.3 %	5.8 %	—	0.9 %
16	3.57	24.0 %	30.6 %	28.5 %	10.1 %	5.9 %	—	0.9 %
17	2.86	8.4 %	19.2 %	36.5 %	19.4 %	15.5 %	—	1.0 %

## 1年次生

設問	平均値 (無回答含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは思 わない	0 該当しない	無回答
1	3.91	38.0 %	30.6 %	18.8 %	8.4 %	3.8 %	—	0.4 %
2	3.51	25.1 %	26.8 %	23.1 %	12.7 %	7.9 %	3.9 %	0.6 %
3	3.68	29.2 %	29.9 %	24.7 %	10.2 %	5.4 %	—	0.6 %
4	3.70	23.1 %	30.4 %	38.8 %	3.8 %	2.0 %	—	2.0 %
5	3.66	29.9 %	29.8 %	22.4 %	11.1 %	6.3 %	—	0.6 %
6	3.53	24.2 %	27.2 %	30.5 %	11.8 %	5.7 %	—	0.5 %
7	3.66	28.0 %	28.9 %	28.6 %	8.7 %	5.2 %	—	0.6 %
8	4.20	45.3 %	34.9 %	14.4 %	3.7 %	1.1 %	—	0.5 %
9	3.97	38.7 %	27.0 %	19.2 %	6.7 %	3.0 %	4.9 %	0.7 %
10	3.30	4.8 %	3.3 %	12.2 %	1.9 %	1.9 %	74.8 %	1.1 %
11	3.60	23.2 %	31.0 %	31.5 %	9.1 %	4.4 %	—	0.8 %
12	3.64	25.0 %	33.2 %	25.3 %	10.8 %	4.7 %	—	1.1 %
13	4.71	79.1 %	13.1 %	5.9 %	1.3 %	0.1 %	—	0.5 %
14	4.16	45.6 %	31.0 %	17.8 %	3.5 %	1.6 %	—	0.6 %
15	3.53	23.1 %	28.6 %	31.2 %	11.0 %	5.5 %	—	0.6 %
16	3.58	25.8 %	29.3 %	27.6 %	10.5 %	6.2 %	—	0.6 %
17	3.03	11.9 %	24.1 %	32.4 %	16.6 %	14.1 %	—	0.9 %

## 2 年次生

設 問	平均値 (無回答含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは思 わない	0 該当しない	無回答
1	3.81	37.2 %	28.9 %	16.9 %	8.9 %	7.3 %	—	0.9 %
2	3.56	27.1 %	30.0 %	20.7 %	9.8 %	10.0 %	1.5 %	0.9 %
3	3.71	30.6 %	30.8 %	21.8 %	10.1 %	5.7 %	—	1.0 %
4	3.74	23.5 %	30.2 %	37.7 %	2.6 %	1.7 %	—	4.2 %
5	3.65	29.6 %	31.3 %	20.2 %	10.1 %	7.8 %	—	0.9 %
6	3.58	26.4 %	28.5 %	26.9 %	10.2 %	6.8 %	—	1.1 %
7	3.66	26.8 %	29.6 %	29.0 %	8.9 %	4.5 %	—	1.1 %
8	4.28	50.6 %	30.5 %	14.1 %	2.1 %	1.5 %	—	1.1 %
9	4.06	38.5 %	27.0 %	16.9 %	4.4 %	2.4 %	9.5 %	1.2 %
10	3.61	11.2 %	5.7 %	15.3 %	2.0 %	2.0 %	61.9 %	1.8 %
11	3.43	19.0 %	29.6 %	32.4 %	10.4 %	7.5 %	—	1.1 %
12	3.66	25.6 %	36.1 %	20.3 %	10.3 %	5.9 %	—	1.8 %
13	4.59	72.6 %	16.0 %	7.0 %	2.5 %	0.8 %	—	1.2 %
14	4.02	38.6 %	32.3 %	20.5 %	6.0 %	1.4 %	—	1.3 %
15	3.40	20.0 %	27.2 %	32.3 %	11.1 %	8.1 %	—	1.2 %
16	3.47	22.4 %	27.9 %	29.6 %	11.3 %	7.6 %	—	1.2 %
17	2.76	6.4 %	16.3 %	39.4 %	20.0 %	16.6 %	—	1.2 %

## 3 年次生

設 問	平均値 (無回答含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは思 わない	0 該当しない	無回答
1	3.80	33.3 %	31.6 %	20.1 %	10.2 %	4.2 %	—	0.5 %
2	3.39	18.7 %	29.0 %	25.9 %	15.9 %	6.5 %	3.4 %	0.6 %
3	3.64	23.5 %	33.7 %	28.2 %	10.6 %	3.5 %	—	0.5 %
4	3.84	26.7 %	32.1 %	34.2 %	2.7 %	1.0 %	—	3.3 %
5	3.59	22.5 %	33.6 %	27.3 %	11.9 %	4.1 %	—	0.5 %
6	3.67	26.3 %	28.4 %	26.8 %	10.1 %	6.8 %	—	1.8 %
7	3.86	32.0 %	33.3 %	25.0 %	5.9 %	3.2 %	—	0.7 %
8	4.26	51.2 %	30.1 %	12.9 %	3.4 %	1.8 %	—	0.6 %
9	4.05	37.1 %	31.4 %	19.1 %	4.2 %	1.6 %	5.8 %	0.8 %
10	3.67	14.8 %	10.4 %	17.1 %	2.9 %	2.5 %	50.5 %	1.8 %
11	3.50	15.1 %	35.1 %	36.7 %	8.8 %	3.5 %	—	0.8 %
12	3.71	22.6 %	38.5 %	25.2 %	8.8 %	2.7 %	—	2.3 %
13	4.67	78.2 %	12.9 %	5.6 %	1.8 %	0.8 %	—	0.8 %
14	4.32	53.3 %	28.8 %	13.1 %	3.1 %	0.8 %	—	0.9 %
15	3.64	23.6 %	32.9 %	29.9 %	8.8 %	3.9 %	—	0.9 %
16	3.66	23.9 %	34.4 %	28.2 %	8.6 %	4.0 %	—	0.8 %
17	2.80	7.3 %	17.7 %	37.3 %	21.3 %	15.6 %	—	0.8 %

# 「大葉祭」雑感

学生部長 土 井 勝

第36回大葉祭は、「招き猫」をテーマに、11月2日から4日まで開催された。日本は不景気な上に、風雲急を上げる物騒な世界情勢なのだが、我らが大葉に威勢よく福を招き入れようというのだ。

ところで、一体なぜ、猫が福を招くと信じられているのだろうか。招き猫の寺として有名な東京世田谷の豪徳寺に、由来が伝えられている。その昔、寺がさびれていたころ、一匹の猫が飼われていた。ある日、鷹狩りの帰りに通りかかった彦根藩主井伊直孝を、猫が手招きして寺に寄せたが、その直後にはげしい夕立となった。直孝はお礼に田畑を寺に寄進して井伊家の菩提寺とし、以来、寺が栄えた。寺はこの猫をたたえ猫塚をまつり、「招福猫児」なるお札を売ったという。話を戻そう。

大葉祭の嚆矢は、バレーボール大会と極まっている。幸い好天となり、グラウンドに白球が飛び、芝生広場には野外ステージがしつらえられ、北斎の富嶽三十六景「神奈川沖波裏」の見事な模写が、背景を飾った（そう言えば、今年の五月祭には、体育館のステージに歌麿の美人画が揚がった。大葉には特異な才能の持ち主がいるらしい）。このステージで男子学生がバトルを繰り広げ、引き続いて、「ホントにこれが…」と思わせる女装の男子と男装の女子が登場したのである。

私的なことを言うと、初日の圧巻は、夕方から体育館で行われた女子学生による浴衣のファッションショーであった。ライトアップされ着飾って登場する姿はまばゆく輝いて、“青年”の私は、時ならぬ胸の高鳴りを禁じ得なかった。

残念なことに、2日目は雨天であった。野外での催しは、雨天には、講義・実習棟の吹き抜けロビーに場所を移し、らせん階段を見物席にするとの計画であった。これは大正解であった。日頃の憂さを晴らせとばかりの大声が響き、クイズ大会もあり、ダンス大会では小学生から社会人までが音楽に合わせてエネルギーに技を競った。日暮れてから体育館で『You』トークショーが催されたが、前売り券はほぼ完売であったとかで、実行委員会の細心の心配の故だろう、観客が整然としていたのには感心した。奔放で飾らないタレントの持ち前の性格がよく出て、外連みのないすがすがしい印象であった。

ようやく散り始めた紅葉が強い風に舞ったものの、最終日は打って変わって好天となった。波間に“富士”を望むステージでは、野外ライブを始め、ジュース早飲み大会やゲームなど、楽しく可笑しい催しが目白押しであったし、恒例となっている園児の発表会も行われた。前日は雨で中止した薬用植物園見学

会とフリーマーケットは、今回は2日を当てることにしていたことが幸いして、この日に多くの参加があった。また、連日の開催となった「科学実験教室」には、近くの小学生が多く参加してくれて、大葉らしさを発揮する見せ場となっていた。これら全てが、地域住民との親睦交流を図る上で、大きな役割を果たしてきていると思う。

ところで、フリーマーケットには、思わぬ掘り出し物がある。ここだけの話だが、正真正銘の牛革の新品ブレザーを、たった300円で手に入れた先生がある。かく言う私も、赤いセーターをとある学生から100円で買い、気に入って着ている（それを見た何も知らぬ本学のエライ先生から、かわいいと褒めてもらった）。

文化系クラブにとっては、大葉祭はまたとない自己アピールの機会なのだろう、展示会やお茶会やライブ演奏会などが、3日間を通して活発に行われていた。模擬店も大いに賑わった。呼び込みの声が飛び交い、何十分も待たされる出店があるなど、売れ行き好調のようであった。私は何度も押し売りをされ、ゲームに興じ、食べ物を一通り腹一杯に収めたが、これも嬉しい迷惑であった。衛生管理に細かい注意が行き届き、何事もなく無事に終了できたのは、安堵の限りである。

後夜祭として恒例になっている大葉名物「薔薇祭」では、女人禁制の舞台上に、羞恥心をかなぐり捨てた男子学生の熱演が続いた。たわいない企画なのだが、脈々と受け継がれてきたのは、健康的な笑いがそこにあるからだろう。時に羽目を外すのも、青年時代の一つの在り方なのだ。是としよう。

大葉祭は学生自治の祭典で、実行委員会のメンバーを核に、クラブが参加する形で行われる。これだけ盛りだくさんの催しを、学業の合間に落ち度なく計画するのは、並大抵のことではなかっただろう。しかも、開催中は裏方に徹するのである。大葉祭を企画し、支え、成功に導いた学生諸君を讃えとともに、ご指導ご協力いただいた多くの先生方と資金援助をいただいた各種団体に、深くお礼申し上げたい。

私は学生部長という責任もあって、今回初めて、どっぷりと大葉祭に浸かった。監督すると言うより、むしろ一緒に楽しんでみた。すると、これまで気づいていなかった学生諸君の別な側面を見た。授業でみる型にはまった姿とはまったく違う、裸の姿である。生き生きと活動的で、人なつこく、奉仕的な姿があった。学業ばかりが人間の力量でないのは無論である。そうであったか。私は、大いに見直した。

# セクシュアル・ハラスメントの防止と対策について

## ～ 背景と基本的な考え方 ～

人権委員長 土 井 勝

大学は、構造的にセクシュアル・ハラスメントが起りやすいところとされています。大学自治という名の壁に囲まれた世界に、学生と教職員あるいは職階の間に、独特な力関係が作用しているからでしょう。幸いにして本学では、これまで深刻な事例は報告されていません。

1999年3月、当時の文部省から全国の大学宛に、防止と対策に向けて積極的に取り組むようにとの通知が出されました。このたび本学においてもガイドラインと規程を制定し、構成員の全てが個人として尊重され、安全公正で自由な環境のもとで、自らの能力を発揮できるよう努めることになりました。ここに背景と基本的な考え方の概要を記し、ご理解とご協力をお願いするものです。

### 1. 男女平等への潮流

人権の観念は、民族、文化そして時代によって異なります。セクシュアル・ハラスメントは、1970年代頃からアメリカで提起された新しい人権概念です。国際婦人年（1975）を契機として、男女不平等を是正する国際的な機運が高まりました。国連は、女性の人権宣言とも言うべき「女性差別撤廃条約」を、国際的拘束力を有する条約として採択し（1979）、日本も批准しています。そこでは、機能平等論（女性の特性やふさわしい性の役割は男性と異なるが、男女は平等であるとする考え）を否定し、あらゆる分野で女性の権利を具体的に保障しました。世界人権会議（1993）は、「性別に基づくあらゆる形態のセクシュアル・ハラスメントおよび性的搾取は、人間の尊厳および価値と両立せず、撤廃されねばならない」と宣言し、世界女性会議（1995）で行動綱領が採択されました。

翻って日本では、日本国憲法で法制上は男女平等が謳われていますが、実質的な平等は実現できてい

ません。国際的な流れを受けて、男女雇用機会均等法（1986）、男女共同参画社会基本法（1996）などの法整備がなされました。21世紀の重要課題は、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること」と定められています。

### 2. セクシュアル・ハラスメントとは何か

私たちは今後、日常的な意識や行動が、果たして男女平等という観点から妥当か否かを、一人一人が見直さねばなりません。性的なことに関して、自身の身体や精神のあり方は、自分で決めるべきことであり、他人から強制されたり不快な干渉を受けたりすることがあってはなりません（性的自己決定権）。相手の意に反する性的な暴力や強制は、人格権の侵害になります。また、性差によって役割を分担すべきであるとの固定観念に基づく言動も、男女共同参画の視点から容認されません。これらを侵すような言動、すなわち①性的な暴力や嫌がらせ（狭義のセクシュアル・ハラスメント）、②固定観念に基づく男女の役割分担の強要（ジェンダー・ハラスメント）のいずれもが、人権侵害に当たることが納得できるでしょう。

セクシュアル・ハラスメントとは、優越的關係や継続的關係を利用するなどして、相手の意に反する性的な言動により相手に不快感や不利益を与え、就学就労や教育研究環境を悪化させること、を言います。

### 3. 取り組み姿勢と体制

セクシュアル・ハラスメントに関わる諸課題に包

括的に取り組み、様々な施策や対策を講じる機関として、本学構成員の各層を代表する委員からなる「セクシュアル・ハラスメント対策委員会」を設置します。セクシュアル・ハラスメントは個人が対象になることが多く、当事者は密かに悩みます。安心して相談したり救済を申し立てたりできる態勢を整えるため、「セクシュアル・ハラスメント相談窓口」を設けます。具体的な事例が発生した場合には、相談窓口から対策委員会へと引き継がれ、対策委員会が主導して解決に向けて対処します。

一旦事が起これば、一方を救済し他方を処罰すればすむと短絡的に考えられがちですが、事はそう単純ではありません。飽くまでも当事者の自己決定と自己責任が原則であり、救済を申し出た者（申立人）と訴えられた者（被申立人）が、ともに自分の問題として捉え、自主的解決に向けて努力することが大切です。大学は組織としての秩序を維持するために、やむを得ず処分することがあるにしても、大学の役割は処分が本義ではありません。むしろ、男女平等についての啓発や意識改革に努め、セクシュアル・ハラスメントを防止することこそが、教育機関としての大学がとるべき姿勢なのです。

#### 4. 対処の方法

一口にセクシュアル・ハラスメントと言っても、a) 道義的な問題に止まるもの、b) キャンパス環境を乱すもの、c) 法的責任が問われるものなど、内容も程度も様々です。明らかに人権侵害に相当するものもありますが、個人の感じ方や、微妙なニュアンスの違いに基づくものも少なくないと言われます。このように、問題の質に応じた幅広い解決方法を整備しておく必要があります。

本学では、人間関係調整型の解決を基本として、①被申立人への改善勧告、②調停（当事者同士の話し合い）、③強制手段（救済措置と加害者の処分）の3つの解決法を選択できるようにしています。このように細やかな対処をしている大学は、今のところ非常に稀です。どの解決法によるかは、申立人の意思を尊重しながら対策委員会が決定しますが、申立人の同意のない方法を採用ことは決してありませ

ん。極めて悪質な場合には、慎重な調査と手続きを経て、就業規則あるいは学則に基づき、処分されることがあります。

なお、どのような対処をするにせよ、当事者の人権は保障されねばなりません。また、問題に関わったいかなる人も、知り得た事実を漏らしてはいけません。

ガイドラインと規程は、理事会の承認を経て、本年中に発効する予定です。対象となるのは、本学に籍を置くすべての構成員で、大学の内外や時間帯にかかわらず適用されます。このような施策を講じることで、何人も萎縮するようなことがあってはなりません。精神の自由は大前提です。『自由と独立と平等』があまねく行き渡る、公正健全なキャンパス環境を創出するのが、本来の狙いなのです。

このたびの施策が発動されるようでは、困りものです。願わくは、無用に帰さんことを。



# 平成 13 年度 就職状況中間報告

## 就 職 部

日本の経済は90年代に入ってから10年以上沈滞が続いているうえ、9月のニューヨークの世界貿易センタービル破壊に始まる世界的な不況が追い打ちをかけているため、先行きに不安がありますが、幸い本学学生の就職状況は極めて好調です。医薬品の適正使用をより充実させる医薬分業の進展が薬剤師不足を生み、また国際競争の激化が製薬企業の求人増加につながっているためと考えています。

最近の就職活動の特徴としてインターネットの利用があげられ、従来は企業への就職活動の第一歩であった、いわゆるエントリーシートの利用が激減しています。本学でも、4年次生の90%以上が携帯電話を含めたインターネットを利用しています。

4年次生316名(男性109名、女性207名)に対する就職ガイダンスとしては、3年次生時に3回のガイダンス(平成12年9月、12月、平成13年1月)を行いました。そのうち第2回目では、適性試験を行い、その分析結果を各人に通知し、職種選択の一助としました。第3回目では、製薬企業22社および薬局12社のご協力を得て、学内で企業説明会を実施しました。また、3～4月には数回に分けての個人面談を実施し、日常の個別相談に加えてきめ細かな指導を心がけています。進路希望調査によれば、薬業関連企業(MR、内勤)、病院、薬局および大学院進学がそれぞれ21～24%とほぼ均等化し、4本柱となっているのが特徴でした。就職活動の流れとしては、MR職では3年次3月頃から始まり、続いて保険薬局・ドラッグストアのセミナーが活発化しました。MR職は5～6月頃に、また、内勤職もおおよそ夏休み頃までに終了しました。また、病院研修生の募集は、7～8月頃から始まります。国立大学附属病院のうち、京都大学では平成14年度から研修料に大幅な値上げがありました。大阪大学もいずれ追随するものと思われます。病院薬剤師の採用内定は秋から12月末に向かって決定していくこととなります。薬局・ドラッグストアの薬剤師に対する需要は極めて大きく、大手の多くは年中採用しているため、これらの職種を希望する学生の中には薬剤師国家試験合格発表まで就職活動をしない人が増加していま

す。しかし、それでは社内研修が受けられないなど好ましくない点があるため、卒業までに内定を得るように勧めています。

平成13年10月25日現在の「平成13年度学部卒業予定者(49期生)進路状況」は表に示す通りです。全業種の内定率は昨年度と比べほぼ同じ状況(昨年度62.4%、本年度62.7%)にあります。大学院希望者が増えています。また、未定の多くは病院薬剤師を第一希望としている学生です。

本年度の3年次生324名(男性117名、女性207名)には、9月28日に第1回目の就職ガイダンスを「薬学生の進路・就職について」というタイトルで、矢内原学長の講演を行いました。また、本年度から職域別(企業、病院、薬局、進学)ガイダンスを取り入れ進路・就職について真剣に考えるよう指導しております。なお、2年次生に対しても、9月の学科配属説明会において、学科の特徴と就職との関連について簡単な説明を行いました。

就職部では、従来通り学生一人ひとりの適性や能力に応じてキメ細かな就職指導、相談を行い、学生の就職活動が満足できるように努力しておりますが、関係各位におかれましてもご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

平成13年度 学部卒業予定者(49期生)進路状況  
(平成13年10月25日現在)

区 分	男性	%	女性	%	合計	%
薬業関連企業(MR)	19	17.4	16	7.7	35	11.1
(内勤)	3	2.8	14	6.8	17	5.4
病院・診療所			5	2.4	5	1.6
病院研修生	1	0.9	14	6.8	15	4.7
薬局・小売	17	15.6	39	18.8	56	17.7
公務員			1	0.5	1	0.3
教職員						
大学院・研究生	38	34.9	28	13.5	66	20.9
その他	3	2.8			3	0.9

内 定	81	74.4	117	56.5	198	62.6
未 定	28	25.6	90	43.5	118	37.4
合 計	109	100.0	207	100.0	316	100.0

# 平成12年度 学校法人決算について

事務局長 肥 塚 敏 彰

去る平成13年5月23日(休)に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成12年度決算が審議のうえ承認されたので、資金収支計算書(総括表)および貸借対照表を掲載します。

## 資金収支計算書(総括表)

(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)

収入の部 (単位 千円)				支出の部 (単位 千円)			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生納付金収入	2,553,000	2,568,694	△ 15,694	人件費支出	1,456,500	1,407,828	48,672
手数料収入	109,100	139,005	△ 29,905	教育研究経費支出	501,600	465,412	36,188
寄付金収入	8,000	13,110	△ 5,110	管理経費支出	358,500	344,408	14,092
補助金収入	263,200	262,370	830	借入金等利息支出	220,500	220,436	64
資産運用収入	3,000	14,649	△ 11,649	借入金等返済支出	3,158,500	3,158,470	30
資産売却収入	3,500,000	5,265,007	△ 1,765,007	施設関係支出	7,000	12,382	△ 5,382
事業収入	301,000	294,376	6,624	設備関係支出	169,400	214,997	△ 45,597
雑収入	95,000	99,143	△ 4,143	資産運用支出	38,000	3,485,270	△ 3,447,270
前受金収入	420,000	458,900	△ 38,900	その他の支出	112,800	124,458	△ 11,658
その他の収入	136,000	138,098	△ 2,098	予備費	10,000	0	10,000
資金収入調整勘定	△ 589,000	△ 635,687	46,687	資金支出調整勘定	△ 85,500	△ 131,195	45,695
資金収入計	6,799,300	8,617,665	△ 1,818,365	資金支出計	5,947,300	9,302,466	△ 3,355,166
前年度繰越支払資金	1,102,000	1,119,726	△ 17,726	次年度繰越支払資金	1,954,000	434,925	1,519,075
収入の部合計	7,901,300	9,737,391	△ 1,836,091	支出の部合計	7,901,300	9,737,391	△ 1,836,091

## 貸借対照表

(平成13年3月31日)

資産の部 (単位 千円)				負債の部 (単位 千円)			
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	17,639,527	18,355,720	△ 716,193	固定負債	4,716,735	5,057,870	△ 341,135
土地	8,722,723	9,226,890	△ 504,167	長期借入金	3,891,630	4,250,100	△ 358,470
建物	6,137,888	6,431,493	△ 293,605	退職給与引当金	825,105	807,770	17,335
構築物	131,114	153,445	△ 22,331	流動負債	929,643	3,686,875	△ 2,757,232
教育研究用機器備品	713,813	669,062	44,751	短期借入金	358,470	3,158,470	△ 2,800,000
その他の機器備品	84,808	88,138	△ 3,330	未払金	90,568	55,786	34,782
図書	926,475	877,285	49,190	前受金	458,900	454,100	4,800
車両	0	1	△ 1	預り金	21,705	18,519	3,186
電話加入権	1,598	1,598	0	負債の部合計	5,646,378	8,744,745	△ 3,098,367
施設利用権	24,018	26,384	△ 2,366	基本金の部			
長期貸付金	4,000	4,000	0	科 目	本年度末	前年度末	増 減
退職給与引当特定資産	826,000	808,000	18,000	第1号基本金	14,614,262	13,611,939	1,002,323
保証金	67,090	69,424	△ 2,334	第4号基本金	201,000	201,000	0
流動資産	3,359,413	1,665,852	1,693,561	基本金の部合計	14,815,262	13,812,939	1,002,323
現金預金	434,926	1,119,727	△ 684,801	消費収支差額の部			
有価証券	2,667,000	364,737	2,302,263	科 目	本年度末	前年度末	増 減
未収入金	182,487	114,940	67,547	翌年度繰越消費収入超過額	537,300	0	537,300
商品	23,134	24,089	△ 955	翌年度繰越消費支出超過額	0	△ 2,536,112	2,536,112
前払金	51,866	42,339	9,527	消費収支差額の部合計	537,300	△ 2,536,112	3,073,412
仮払金	0	20	△ 20	負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	20,998,940	20,021,572	977,368
資産の部合計	20,998,940	20,021,572	977,368				



## 教務課だより

### 大学院薬学研究科博士前期課程（修士課程） 臨床薬学コースの開設について

平成14年度より、医薬品の適正使用、薬物治療等へ積極的に関与できうる、高度に訓練を受けた薬剤師の養成を目指す臨床薬学コースを開設し、募集を開始しました。

◇ ◇ ◇

### 平成14年度 大学院薬学研究科 博士前期課程（修士課程）入学試験結果

#### （推薦入試）

募集人員 6名（臨床薬学コースを含む）  
出願期間 平成13年6月11日（月）～6月22日（金）  
面接試験 7月2日（月）  
合格発表 7月9日（月）  
志願者 10名〔男子6名，女子4名〕  
受験者 10名〔男子6名，女子4名〕  
合格者 6名〔男子4名，女子2名〕

#### （一般入試1次）

募集人員 24名（臨床薬学コースを含む）  
出願期間 平成13年7月23日（月）～8月3日（金）  
学力試験 8月20日（月）〔外国語科目（英語），専門科目〕（臨床薬学コース希望者のみ面接試験）  
合格発表 8月27日（月）  
志願者 51名〔男子34名，女子17名〕  
うち，臨床薬学コース7名（男子2名，女子5名）  
受験者 47名〔男子33名，女子14名〕  
うち，臨床薬学コース7名（男子2名，女子5名）  
合格者 31名〔男子20名，女子11名〕  
うち，臨床薬学コース6名（男子2名，女子4名）

#### （一般入試2次）

募集人員 若干名（臨床薬学コースを含む）  
出願期間 平成13年10月5日（金）～10月11日（木）  
学力試験 10月19日（金）〔外国語科目（英語），専門科目〕（臨床薬学コース希望者のみ面接試験）  
合格発表 10月24日（水）  
志願者 11名〔男子9名，女子2名〕  
うち，臨床薬学コース1名〔女子1名〕  
受験者 11名〔男子9名，女子2名〕  
うち，臨床薬学コース1名〔女子1名〕  
合格者 10名〔男子8名，女子2名〕  
うち，臨床薬学コース1名〔女子1名〕

◇ ◇ ◇

### ◇ 学位記授与

#### 〔学士〕

学士（薬学）薬学科 7名・製薬学科 8名  
男子6名・女子9名 合計15名（平成13年9月30日付）

## 図書館だより

### ◆ 図書紹介

#### ○ アプライドセラピューティクス 全4巻

今、薬物治療の適正化が強く求められています。わが国における薬物治療は従来経験主義的な色合いを強くにじませるものがあったと考えられます。この本はアメリカの臨床薬学の成果として科学的な薬物治療の具体的なあり方を示す世界的に評価されているテキストブックです。

#### ○ 好きになる数学入門 全6巻

この内容は、数学の考え方を体系的に説明するのではなく、いろいろな数学の問題をどのような考え方を使って解くかということが中心となっています。できるだけ数多くの問題を実際に自分で解くことを通じて考え方を身に付けることができるよう配慮してあります。

また、数学を好きになって欲しいと願い、経済学の先生が書いた一味違う数学の本です。

### ◆ 最近よく読まれている図書

#### （専門図書）

実験を安全に行うために  
NOの生理作用と疾患  
有機化学入門  
遺伝子工学キーワードブック  
有機化学のためのスペクトル解析法  
薬学生のための疾患と病態生理  
電気泳動最新プロトコール  
細胞内シグナル伝達がわかる  
知っておきたい高血圧の話  
目でみるからだのメカニズム

#### （一般教養図書）

ハリー・ポッターと賢者の石  
研修医ななし  
きらきらひかる  
だからあなたも生きぬいて  
これからはじめる英会話  
ささいなことにもすぐ動揺してしまうあなたへ  
ばたばたナース  
アンテナ  
チーズはどこへ消えた  
話を聞かない男・地図を読めない女

## 学生課だより

### 奨学生状況

平成13年11月1日現在

#### 1. 日本育英会

区分		1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合計(人)
第一種		18	26	26	23	17	110
月額	自宅	51,000円	50,000円	50,000円	49,000円	84,000円～ 119,000円	
	自宅外	61,000円	60,000円	60,000円	59,000円		
第二種		—	—	—	13	—	13
月額 (薬学課程増額月額)	自宅	—	—	—	49,000円 (69,000円)	—	
	自宅外	—	—	—	59,000円 (79,000円)	—	
きぼう21		41	67	49	27	9	193
月額 (薬学課程増額月額)		3万・5万・8万・10万円から選択 (10万円を選択した場合は2万円の増額可)				5万・8万・ 10万・13万円 から選択	
合計		59	93	75	63	26	316

#### 2. その他の育英・奨学団体

名称	(月額)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合計(人)	給付・貸与
あしなが育英会	40,000円	1	0	0	1	—	2	貸与
財伊予三島奨学会	25,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
財大阪府育英会	30,000円	1	0	0	0	—	1	貸与
財岡山県育英会	48,000円	1	0	0	2	—	3	貸与
岐阜県教育委員会	32,000円	0	1	0	0	—	1	貸与
岐阜市	39,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
財交通遺児育英会	50,000円	0	0	1	0	—	1	貸与
鯖江市教育委員会	30,000円	0	0	0	1	—	1	貸与
財島根県育英会	52,000円	0	0	0	1	—	1	貸与
財奥村奨学会	30,000円	0	0	0	1	—	1	給付
財小野奨学会	学部30,000円 大学院60,000円	2	1	1	2	2	8	給付
財佐藤奨学会	19,500円	0	0	0	1	—	1	給付
財大東育英会	25,000円	0	1	0	1	—	2	給付
財朝鮮奨学会	25,000円	0	0	1	1	—	2	給付
財南都育英会	50,000円	0	0	0	1	—	1	(貸与)一部給付
大阪薬科大学育友会	40,000円	3	3	1	5	2	14	貸与
合計		8	7	5	17	4	41	

○ 学生証の更新について

緑色の学生証（平成12年入学者、平成10年以前の入学者対象）の有効期限は、平成14年3月31日までとなっています。このため、新年度に向けて学生証更新の手続きが必要になります。更新時期や手続き等については、学生部の掲示板で随時案内しますので、注意しておいてください。

○ 自動車・単車通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、騒音や路上駐車による近隣居住者への迷惑防止、構内での交通安全を確保し学園内環境を保全するため、自動車・単車（原付を含む）の入構については原則として禁止しています。

しかしながら、近隣路上に迷惑駐車をする学生が、後を絶ちません。利便性から「これぐらいはいいのでは」という安易な駐車が、大学周辺の居住者にとっては大きな迷惑となっています。学生自身の安全のためばかりでなく、居住者への迷惑防止のためにも、学内交通ルールを守り、バス等公共交通機関を利用し通学するようにしてください。



「関西薬連・全国薬連大会」結果（平成13年度）

▶ 関西薬連

クラブ名	団体	個人	
剣道部	男子7位 女子1位		
硬式庭球部	男子2位 女子3位	シングルス 2位	田端②
硬式野球部	3位		
サッカー部	予選敗退 男子1位 女子—	有段3位 個人1位 2位	富山③ 大町② 池林②
ソフトテニス部	男子8位 女子4位		
卓球部	男子3位 女子1位	シングルス 1位 3位 シングルス 1位 3位 ダブルス 2位	頼原④ 中田④ 佐々木③ 村岡③ 佐々木③ 村岡③
バスケットボール部	男子1位 女子予選敗退		
バドミントン部	男子8位 女子7位		
バレーボール部	男子3位 女子1位		
陸上競技部	男子	トラック 5位 3位 ヤリ投げ 2位 3位	桜井③ 向井②
	女子	トラック 3位 4×100mリレー 3位 フィールド 100mハードル 2位 3位 走り高跳び 1位 3位 走り幅跳び 1位 3位 円盤投げ 1位 3位 砲丸投げ 1位 ヤリ投げ 1位 2位 3位	中馬③ 田中③ 森廣③ 米澤③ 戀中② 田中③ 戀中② 櫻木① 戀中② 佐々木② 森廣③ 廣瀬② 森廣③ 田中③ 神田②

▶ 全国薬連

クラブ名	団体	個人	
剣道部	男子予選敗退 女子ベスト8		
ソフトテニス部	男子4位 女子決勝トーナメント初戦敗退	個人4位	青木③ 尹②
卓球部	男子ベスト8 女子2位	ダブルス 2位	佐々木③ 村岡③
バスケットボール部	男子ベスト8 女子3位		

注) ○内は学年

## 総務課だより

### □ 人 事 □

採用 (平成13年7月2日付)  
 教授 天野富美夫 (衛生化学教室)  
 (平成13年12月1日付)  
 事務職員 鶴殿 千晶 (経理課)

昇任 (平成13年8月1日付)  
 主任 難波奈緒子 (総務課)  
 (平成13年10月1日付)  
 主任 齋藤 貴博 (教務課)  
 主任 鶴田 政樹 (施設課)

配置換え (平成13年8月1日付)  
 讚木真理子 (教務課主任/図書課主任より)

退任 (平成13年7月31日付)  
 中山 基宏 学校法人大阪薬科大学附属薬局事務  
 担当統轄 (併任を解く)

非常勤講師 (平成13年9月25日付)  
 小坂 美樹 (フランス語2)  
 斎藤 武 (数学2)  
 田口 侑男 (数学2)  
 中塚 宗次 (薬事関連法・制度)  
 中村 益久 (臨床薬理学1)  
 中村 恵 (ドイツ語2, ドイツ語4)  
 榎矢 桂一 (ドイツ語4, 洋書講読ゼミ2, 人文  
 科学特論2)  
 村田 吉郎 (病態生理学2)  
 望月伸三郎 (健康科学)  
 山内 真理 (英語2)  
 Joseph Michael Jacobs (英語4)  
 Julianne Gay Whitlam (英語4)  
 Anthony FW FOONG (洋書講読ゼミ2)

客員研究員 (平成13年4月1日付 期間半年)  
 草野 昭子  
 (平成13年9月1日付 期間1年)  
 中田 功二  
 (平成13年10月1日付 期間1年)  
 木戸 正  
 内田 武  
 (平成13年11月1日付 期間1年)  
 若原 章男

名誉教授 (平成13年4月1日)  
 碓井 信二

### □ 海外出張 □

馬場きみ江 助教授, 谷口 雅彦 助手  
 (生薬科学教室)  
 <出張期間: 平成13年6月3日~6月6日>  
 昆明植物研究所, 市内生薬市場訪問  
 (雲南省, 中国)

玄番 宗一 教授 (薬理学教室)  
 <出張期間: 平成13年8月25日~9月2日>  
 34th International Congress of Physiological  
 Sciences  
 (Christchurch, New Zealand) にて発表

田中 一彦 教授 (臨床薬剤学教室)  
 <出張期間: 平成13年8月30日~9月7日>  
 7th International Congress of Therapeutic  
 Drug Monitoring and Clinical Toxicology  
 (Washington DC, USA) にて発表

松村 靖夫 助教授, 高岡 昌徳 助手  
 (生命薬科学部門病態分子薬理学研究室)  
 <出張期間: 平成13年9月14日~9月22日>  
 7th International Conference on Endothelin  
 (Edinburgh, Scotland) にて発表

玄番 宗一 教授 (薬理学教室)  
 <出張期間: 平成13年10月13日~10月17日>  
 ASN/ISN World Congress of Nephrology  
 (San Francisco, California, USA) にて発表

### □ 海外留学 □

岩永 一範 助手 (薬剤学教室)  
 <留学期間: 平成13年7月1日~  
 平成14年6月30日>  
 米国 ワシントン大学薬学部へ留学  
 研究テーマ「代謝酵素発現細胞膜モデルを用いた  
 小腸からの薬物吸収と代謝の関係の解明」

\* \* \* \* \*

#### ■ 平成14年度の学費について (学部)

平成14年度の学費が次のとおり決定しましたので  
 お知らせします (本年度と同額)。 (単位 円)

費用	金額
授業料 (年額)	1,200,000
施設・設備費 (年額)	600,000
計	1,800,000

## ■ 消防訓練

平成13年10月31日 (水) 消防訓練が実施された。午前10時に研究棟3階で出火したとの想定で開始され、講義中の学生を含め、消火・通報連絡・避難誘導・救護の各訓練が行われた。避難完了後、学部学生に対し、土井避難誘導班長より注意喚起を含めた挨拶が行われた。



## ■ 名誉教授称号授与式

平成13年9月18日 (水) 午前11時30分より学長室において、碓井信二元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式が挙行された。



## ■ 9月卒業式

平成13年9月28日 (金) 午前11時より大会議室において、平成13年9月卒業式(薬学科7名、製薬学科8名)が関係者参列のもとに挙行された。



## 施設課だより

### ◆ 環境整備事業 (学内緑化)

#### ○ 時計塔周辺の緑地整備

工事期間：平成13年2月12日～16日

樹木数：40種



#### ○ 芝生広場(遊歩道)周辺の緑地整備

工事期間：平成13年3月26日～5月12日

樹木数：80種

多年草：20種

背付ベンチ：16基

背無ベンチ：26基

育友会寄贈：プラ擬木藤棚；3組、  
塩ビ藤棚；4組

同窓会寄贈：プラ擬木テーブル；3組、  
同ベンチ；6組



## 平成13年度後期行事予定

平成13年

- 8. 31(金) 前期再試験受験者発表 (1～3年次生)
- 8. 31(金) } 前期再試験 (4年次生・1～4年次全科目)
- 9. 17(月)
- 9. 6(木) } 前期再試験 (1～3年次生)
- 9. 21(金)
- 9. 8(土) 平成14年度編入学試験 (H方式)
- 9. 18(火) 平成14年度編入学試験 (H方式) 合格者発表
- 9. 25(火) 後期授業前半開始 (1～3年次生)
- 9. 26(水) 特別再試験 (4年次生) 受験者発表
- 9. 28(金) 後期選択科目 (1～3年次生)  
履修届提出締切 (教務課) 午後3時  
就職ガイダンス (3年次生)
- 9. 29(土) 第1回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
- 10. 1(月) } 特別再試験 (4年次生)
- 11. 19(月)
- 10. 19(金) 平成14年度 (第2次) 大学院修士課程一般入学試験
- 10. 20(土) 第2回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
- 10. 21(日) 平成14年度AO入学試験 (A方式) 第二次選考
- 10. 24(水) 平成14年度 (第2次) 大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 10. 31(水) 平成14年度AO入学試験 (A方式) 合格者発表
- 11. 1(木) 第36回大薬祭準備 (午後臨時休講)
- 11. 2(金) } 第36回大薬祭等 (臨時休講)
- 11. 5(月)
- 11. 11(日) 平成14年度推薦入学試験 (S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験 (K方式)
- 11. 20(火) 平成14年度推薦入学試験 (S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験 (K方式) 合格者発表
- 11. 24(土) 第3回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
- 12. 12(水) 実験動物慰霊祭
- 12. 15(土) 平成13年度長期病院実務実習報告会 (4年次生長期病院実務実習コース)
- 12. 20(木) 就職ガイダンス (3年次生)
- 12. 21(金) 後期授業前半終了 (1～3年次生)
- 12. 22(土) 第4回薬学総合演習総合試験 (4年次生)

平成14年

- 1. 7(月) 後期授業後半開始 (1～3年次生)
- 1. 8(火) } 薬学総合演習正規試験 (4年次生)
- 1. 9(水) } 1. 11(金) 後期授業後半終了 (1～3年次生)
- 1. 15(火) } 後期定期試験 (1～3年次生)
- 1. 30(水)
- 1. 18(金) 平成14年度大学入試センター試験実施準備 (午後臨時休講)
- 1. 19(土) } 平成14年度大学入試センター試験 [センター試験利用入学試験 (C方式)]
- 1. 20(日) } 1. 30(水) } 薬学総合演習再試験 (4年次生)
- 1. 31(木) } 1. 30(水) 就職ガイダンス (3年次生)
- 1. 31(木) } 後期定期試験 (1～3年次生) 欠席届提出締切 (教務課) 午後1時
- 2. 1(金) 平成14年度一般入学試験 I (F方式) (本学・大阪予備校・広島国際会議場)
- 2. 7(木) 平成14年度センター試験利用入学試験 (C方式)・一般入学試験 I (F方式) 合格者発表
- 2. 9(土) 後期再試験 (1～3年次生) 受験者発表
- 2. 12(火) } 平成14年度一般入学試験 II (G方式) (本学・大阪予備校)
- 2. 26(火) } 後期再試験 (1～3年次生)
- 2. 14(木) 卒業生発表・特別再試験および薬学総合演習再試験 (4年次生) 成績発表 (教務課)
- 2. 16(土) 平成14年度一般入学試験 II (G方式) 合格者発表
- 2. 28(木) 特別再試験 (3年次生) 受験者発表
- 3. 1(金) } 薬剤師国家試験全国統一模擬試験 (4年次生)
- 3. 2(土) } 3. 上旬・下旬 就職個人面談 (3年次生)
- 3. 5(火) } 特別再試験 (3年次生)
- 3. 7(木) } 3. 9(土) 第49期学部卒業式および第26期大学院学位記授与式
- 3. 15(金) 進級者発表・進級者未修得科目発表 (教務課)
- 3. 23(土) } 第87回薬剤師国家試験 (厚生労働省)
- 3. 24(日)

# 葦

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005

URL : <http://www.oups.ac.jp>